

H29年度年度

番号

平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」事業計画書

1 分野名

医療・福祉・健康(健康)

「その他」分野名

2 事業名

障がい者スポーツ支援の専門性を備えた理学療法士・作業療法士を養成する学び直しプログラムの開発

3 実施するプロジェクト

(1)職域プロジェクトA (地域版学び直し教育プログラム等の開発・実証)	○
(2)職域プロジェクトB (特色ある教育推進のための教育カリキュラム等の開発・実証)	

※ 申請する取組いずれかに一つ「○」を記入すること。

「女性の学び直し」に対応する場合、右欄チェック ☐

4 代表機関

■代表機関(申請法人)等

法人名	学校法人福田学園
理事長名	福田 益和
学校名	大阪保健医療大学
所在地	大阪府大阪市北区天満 1-9-27

■事業責任者(事業全体の統括責任者)

■事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

職名	保険医医療学部 准教授	職名	学園企画室
氏名	足立 一	氏名	中野 尚美
電話番号	06-6352-0093	電話番号	06-6352-0093
E-mail	hajime.adachi@ohsu.ac.jp	E-mail	naomi.nakano@fukuda.ac.jp

5 構成機関・構成員等

(1) 構成機関(機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

構成機関(学校・団体・機関等)の名称		役割等	都道府県名
1	大阪保健医療大学(代表機関)	統括	大阪府
2	大阪リハビリテーション専門学校	開発 実施	大阪府
3	大阪府立すながわ高等支援学校	開発 実施	大阪府
4	社会福祉法人北摂杉の子会	開発 実施	大阪府
5	介護老人保健施設 恵泉	開発 実施	兵庫県
6	障がい者支援センター「てらだ」	開発 実施	兵庫県
7	石川県立高松病院	開発 実施	石川県
8	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー	実施 検証	石川県
9	株式会社エルアイ武田	開発 実施	大阪府
10	多機能型事業所「むく」	開発 実施	静岡県
11	はくほう会医療専門学校赤穂校	実施 検証	兵庫県
12	高知リハビリテーション学院	実施 検証	高知県
13	東京医療学院大学	実施 検証	東京都
14	ハーベスト医療福祉専門学校	実施 検証	兵庫県
15	聖隷クリストファー大学	実施 検証	静岡県
16	東京都理学療法士会	実施 検証	東京都

(2) 構成員(委員)の氏名(上記(1)の機関から参画する者及び個人で本事業に参画する者等)

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	足立 一	大阪保健医療大学	統括	大阪府
2	中野 尚美	学校法人福田学園	事務局	大阪府
3	辻 郁	大阪保健医療大学	開発(責任者)	大阪府
4	島 雅人	大阪保健医療大学	実施(責任者)	大阪府
5	井口 知也	大阪保健医療大学	検証(責任者)	大阪府
6	大友 健治	大阪リハビリテーション専門学校	開発・実施	大阪府
7	吉本 早織	大阪府立すながわ高等支援学校	開発・実施	大阪府
8	小林 哲理	社会福祉法人北摂杉の子会	開発・実施	大阪府
9	北田 泰敏	介護老人保健施設 恵泉	開発・実施	兵庫県
10	大谷 将之	障がい者支援センター「てらだ」	開発・実施	兵庫県
11	濱西 タ子	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー	実施・検証	石川県

12	大森 千恵	株式会社エルアイ武田	開発・実施	大阪府
13	亀山 一義	はくほう会医療専門学校赤穂校	実施・検証	兵庫県
14	内田 学	東京医療学院大学	実施・検証	東京都
15	竹中 有	ハーベスト医療福祉専門学校	実施・検証	兵庫県
16	鈴木 達也	聖隷クリストファー大学	実施・検証	静岡県
17	木村奈緒子	東京医療学院大学	実施・検証	東京都
18	林 弘康	東京都理学療法士協会副会長スポーツ局長	実施・検証	東京都
19	西野 愛	高知リハビリテーション学院	実施・検証	高知県
20	西川 拓志	石川県立高松病院	開発・実施	石川県
21	大野実沙紀	多機能型事業所むく	開発・実施	静岡県

(2)－① 実施委員会の構成員(委員)(上記(2)の者うち本委員会構成員))

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	足立 一	大阪保健医療大学	統括	大阪府
2	中野 尚美	学校法人福田学園	事務局	大阪府
3	辻 郁	大阪保健医療大学	開発(責任者)	大阪府
4	島 雅人	大阪保健医療大学	実施(責任者)	大阪府
5	井口 知也	大阪保健医療大学	検証(責任者)	大阪府
6	大友 健治	大阪リハビリテーション専門学校	開発・実施	大阪府
7	吉本 早織	大阪府立すながわ高等支援学校	開発・実施	大阪府
8	小林 哲理	社会福祉法人北摂杉の子会	開発・実施	大阪府
9	北田 泰敏	介護老人保健施設 恵泉	開発・実施	兵庫県
10	大谷 将之	障がい者支援センター「てらだ」	開発・実施	兵庫県
11	濱西 タ子	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー	実施・検証	石川県
12	大森 千恵	株式会社エルアイ武田	開発・実施	大阪府
13	亀山 一義	はくほう会医療専門学校赤穂校	実施・検証	兵庫県
14	内田 学	東京医療学院大学	実施・検証	東京都
15	竹中 有	ハーベスト医療福祉専門学校	実施・検証	兵庫県
16	鈴木 達也	聖隷クリストファー大学	実施・検証	静岡県
17	木村奈緒子	東京医療学院大学	実施・検証	東京都
18	林 弘康	東京都理学療法士協会副会長スポーツ局長	実施・検証	東京都
19	西野 愛	高知リハビリテーション学院	実施・検証	高知県
20	西川 拓志	石川県立高松病院	開発・実施	石川県
21	大野実沙紀	多機能型事業所むく	開発・実施	静岡県

(3) 実施委員会における下部組織(分科会)の構成員(委員) (設置は任意)

① 開発分科会

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	辻 郁	大阪保健医療大学	責任者	大阪府
2	吉本 早織	大阪府立すながわ高等支援学校	開発	大阪府
3	小林 哲理	社会福祉法人北摂杉の子会	開発	大阪府
4	北田 泰敏	介護老人保健施設 恵泉	開発	兵庫県
5	大谷 将之	障がい者支援センター「てらだ」	開発	兵庫県
6	大野実沙紀	多機能型事業所「むく」	開発	静岡県
7	大森 千恵	株式会社エルアイ武田	開発	大阪府
8	西川 拓志	石川県立高松病院	開発	石川県

②実施分科会

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	島 雅人	大阪保健医療大学	責任者	大阪府
2	大友 健治	大阪リハビリテーション専門学校	実施	大阪府
3	吉本 早織	大阪府立すながわ高等支援学校	実施	大阪府
4	小林 哲理	社会福祉法人北摂杉の子会	実施	大阪府
5	北田 泰敏	介護老人保健施設 恵泉	実施	兵庫県
6	大谷 将之	障がい者支援センター「てらだ」	実施	兵庫県
7	濱西 タ子	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー	実施	石川県
8	大野実沙紀	多機能型事業所「むく」	実施	静岡県
9	大森 千恵	株式会社エルアイ武田	実施	大阪府
10	亀山 一義	はくほう会医療専門学校赤穂校	実施	兵庫県
11	内田 学	東京医療学院大学	実施	東京都
12	竹中 有	ハーベスト医療福祉専門学校	実施	兵庫県
13	鈴木 達也	聖隷クリストファー大学	実施	静岡県
14	木村奈緒子	東京医療学院大学	実施	東京都
15	林 弘康	東京都理学療法士協会副会長スポーツ局長	実施	東京都
16	西野 愛	高知リハビリテーション学院	実施	高知県
17	西川 拓志	石川県立高松病院	実施	石川県

③検証分科会

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	井口 知也	大阪保健医療大学	責任者	大阪府
2	濱西 タ子	専門学校金沢リハビリテーションアカデミー	検証	石川県
3	亀山 一義	はくほう会医療専門学校赤穂校	検証	兵庫県
4	内田 学	東京医療学院大学	検証	東京都
5	竹中 有	ハーベスト医療福祉専門学校	検証	兵庫県
6	鈴木 達也	聖隷クリストファー大学	検証	静岡県
7	木村奈緒子	東京医療学院大学	検証	東京都
8	林 弘康	東京都理学療法士協会副会長スポーツ局長	検証	東京都
9	西野 愛	高知リハビリテーション学院	検証	高知県

(4)事業の実施体制

■実施委員会

実施委員会は、理学療法士・作業療法士の養成施設、障害者スポーツ関連組織・団体、障害者福祉施設、支援学校等を構成機関とする産学連携体制で、事業を推進する組織である。ここでは、事業計画に基づき、事業活動の具体化・実施等に関する重要事項の検討、決定を行うと共に、開発・実施・検証という事業活動全体のマネジメントを担当した。

■分科会

実施委員会の下部組織として、分科会を設ける。分科会では、事業の個別テーマについて検討し成果をとりまとめた。

(開発分科会)

モデルカリキュラムの策定を行う。eラーニングコンテンツの制作、スクーリング実習カリキュラムの作成等を担当した。

(実施分科会)

実証講座(eラーニング視聴、スクーリング実習、コラボレーション支援等)の企画、準備、実施運営、評価を担当した。

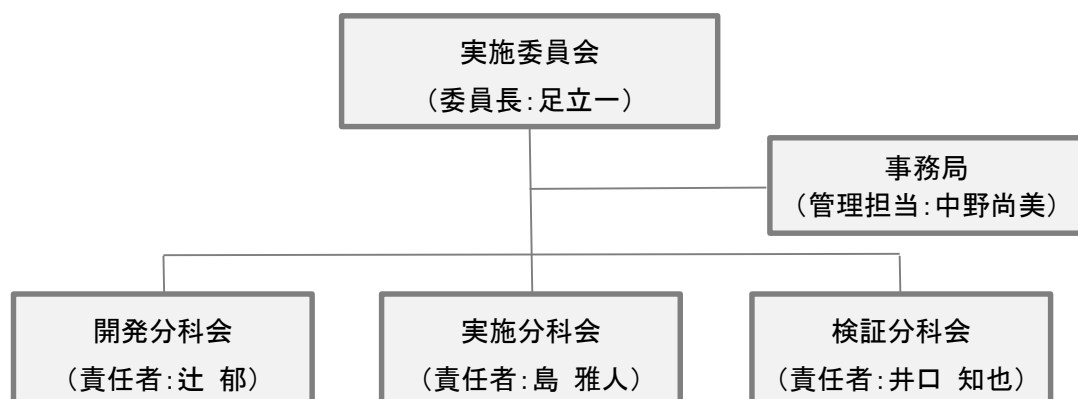
(検証分科会)

開発した教育プログラム、実証講座の結果等に対する検証とりまとめを担当した。

■事務局

本事業の運用全般に係る事務業務を担当した。

また、外部業者への発注管理担当として、実施委員会委員長及び各分科会の責任者と連携して、発注管理に任にあたった。



6 事業の内容等

(1) 本年度事業の趣旨・目的等について

i) 事業の趣旨・目的

近年、障がい者スポーツは高度な「技」を競い合う競技スポーツから余暇を楽しむスポーツや健康増進のためのスポーツまで、そのすそ野が急速に広がりつつある。しかし、現状ではスポーツ実施の目的や障害種別、ライフステージに応じた適切な支援ができる専門人材は充足しておらず、その育成が障がい者スポーツの今後の発展の課題となっている。

このような現状を踏まえ、平成 27 年度から 29 年度の 3 カ年に亘って、理学療法士・作業療法士が、その専門性を土台として活かしながら新たに障がい者スポーツ支援に係る専門知識とスキルの習得を目的とする「障がい者スポーツ支援学び直しプログラム」の開発と実証的実施の取り組みを行うこととした。

リハビリテーションを専門とする理学療法士・作業療法士の専門性と障がい者スポーツ支援の間には多くの接点があり、適切なカリキュラムを組むことで障がい者スポーツ支援の実践力の獲得が可能となる。また、このような専門性を新たに得ることは、理学療法士・作業療法士にとっても職域の拡大やキャリアアップにつながっていくなど、そのメリットも大きい。

この「障がい者スポーツ支援学び直しプログラム」は、現役の理学療法士・作業療法士という多忙な実務者を対象とすることから、時間や場所の制約が少なく学習者自身のペースで学ぶことのできる e ラーニングとスクーリングによる集合研修で構成されている。e ラーニングでは主に専門知識、スクーリングでは支援に係る実践スキルの習得を狙いとしている。

(540文字以内)

ii) 目指すべき人材像・学習成果【A】/教育カリキュラムを受講した生徒が目指す人材像【B】

障がい者スポーツの指導と運営の専門知識と実践スキルを備えた中核的な理学療法士・作業療法士

(120文字以内)

(2) 本年度事業の実績

i) 会議

※複数の会議を設置する場合には、欄を適宜追加して記載すること。

会議名①	実施委員会
目 的	教育プログラムの開発、実施、検証に係る重点事項の検討、決定を行い、各分科会の活動へとつなげていく。また、分科会の活動結果・成果について検討し、その後の活動指針等を決定する。

検討した 具体的 内容	第1回 ○事業の実施計画の説明→承認 ○実証講座計画説明→承認 ○eラーニング・SNS利用方法等説明→確認・承認 第2回（インターネット会議） ○eラーニングの視聴状況の報告→視聴の促し ○スクーリング実習の経過報告→参加者募集の促し ○SNSへの参加促進 ○動画コンテンツ収録時における委員長の立ち合い・指導の報告 第3回 ○eラーニングの視聴経過・結果の報告→承認 ○スクーリング実習実施経過・結果の報告→承認 ○受講者スキルチェック及びアンケート結果の報告→承認 ○eラーニング教材の改訂版の視聴と確認→承認 ○実施報告書の内容の確認→メールで後日最終確認となった。 ○今後の展開について検討し合った。		
委員数	22 人	開催実績	3回（内、1回はネット会議）

会議名②	開発分科会		
目 的	教育プログラムの企画、設計、開発を実施する。		
検討した 具体的内 容	○eラーニング教材の改訂内容を検討した。 ○eラーニング教材の改訂（PP資料とシナリオ、収録）の役割分担をし、実施状況を共有した。 ○収録業者への指導方法について検討し、委員長へ申し送った。 ○SNSコラボレーション支援の内容と運用について業者と検討する担当者を決めた。		
委員数	8 人	開催実績	2回

会議名③	実施分科会		
目 的	開発した教育プログラムの実施計画の立案、実施準備、運営、実施結果のとりまとめなどを行う。		
検討した 具体的内 容	○スクーリング実習カリキュラムを検討した。 ○スクーリング実習の実施日程等の調整・準備・活動内容の検討などの役割を分担し、実施状況を共有した。		
委員数	18 人	開催頻度	2回

会議名④	検証分科会		
目 的	開発した教育プログラムの内容・構成、及び教育プログラムの実施結果等について検証する。		
検討した 具体的内 容	○実証講座における受講者スキルチェック及びアンケートの内容、実施方法について検討した。 ○スキルチェック及びアンケートの実施について役割分担を行い、実施状況を共有した。		
委員数	10 人	開催実績	2回

ii) 実施した調査等(目的、対象、手法、調査項目、調査結果の概要を記載)

特に

iii) 開発した教育プログラム(又は教育カリキュラム)

①障害者スポーツ支援学び直しプログラム

開発した教育プログラム(又は教育カリキュラム)①

※複数の教育プログラム(又は教育カリキュラム)を作成した場合には、ア～エの項目を適宜追加して作成すること。

ア) 名称

障がい者スポーツ支援学び直しプログラム

イ) 開発した教育プログラム(又は教育カリキュラム)の全体的な骨格

■平成 27 年度事業

平成 27 年度事業では、教育プログラム全体の企画・設計を行い、モデルカリキュラムを策定すると共に、障がい者スポーツ支援の専門的な知識を自己学習のスタイルで身につける e ラーニング教材を制作した。

モデルカリキュラムは、障がい者スポーツの指導と運営を中心に、障がい者スポーツ支援に係る専門知識を基礎から研究レベルまで系統的に学ぶ内容で構成されている。e ラーニング教材は、このモデルカリキュラムに基づく科目・学習單元ごとの講義動画で組み立てられている。

■平成 28 年度事業

平成 28 年度事業では、平成 27 年度事業の成果を基盤として教育プログラムの充実化に向けた取り組みを行った。具体的には、スクーリングにおける実習カリキュラムの策定、e ラーニング教材の拡充、これらを活用した実証講座の実施・検証である。

スクーリングにおける実習カリキュラムは、実際の障がい者スポーツ大会での試行的な実習の実施を通して、効果的なカリキュラムの策定を行った。障がい者スポーツ支援の実践力を得るためには、e ラーニングによる知識学習のみでは限界が否めない。e ラーニングで獲得した知識を障がい者スポーツ支援の実際の場面で適用・統合化する学習プロセスが不可欠であり、それがスクーリングの狙いである。

e ラーニング教材については、平成 27 年度事業では扱われなかった障がい者アスリート支援の専門知識・技術をテーマとする学習單元を大幅に追加した。これにより、障がい者スポーツ支援の幅広い領域に対応できる内容へと拡充化した。

さらに、e ラーニング教材と策定した実習カリキュラムに即したスクーリングによる実証講座を現役の理学療法士・作業療法士に対して実施し、その結果に対する検証を行った。これにより、「障がい者スポーツ支援学び直しプログラム」の有用性・有効性と共に改善すべき課題点を確認することができた。

■今年度（平成 29 年度）事業の取り組み

平成 27・28 年度事業を通して、障がい者スポーツ支援の学び直しプログラムは具体化され、実証講座の実施・検証から教育プログラムの有用性・有効性を確認することができたが、その一方で再度検討すべき事項や改善すべき点も明らかとなった。また、講座の運営方法に関して見直しが必要となる事項も見出された。

取り組みの最終年となる今年度は、これらの改善事項を中心に e ラーニング教材のバージョンアップを行うと共に、より実効性の高い教育プログラムの運営方法を整備し実施することとした。その具体的な取り組みは以下の通りである。

1) 障がい者スポーツ支援学び直しプログラムの改善

学び直しプログラムの改善・質向上を目的に、モデルカリキュラムの改訂と e ラーニング教材のバージョンアップを行った。具体的には、スキマ時間を活用するなど学習者にとって学びやすい e ラーニング教材とするため、モデルカリキュラムを改訂し各学習単元のコマ時間の短縮化・統一化を行い、講義シナリオの再構成と講義の再収録を実施した。再収録では、パワーポイント資料の鮮明化など講義映像の質向上も図った。また、パワーポイント資料（PDF）のダウンロード環境の整備を実施した。

2) コラボレーション支援環境の再整備と運用

平成 28 年度事業において、e ラーニング教材の視聴率やスクーリング実習の参加を促すことを狙いとする専用の SNS サイト「コラボレーション支援環境」について検討し、その試行版を設定したが、期間的な理由から実運用には至らなかった。今年度はこれを再整備・運用し、e ラーニングによる自己学習やスクーリング実習で学ぶ受講者をネットワーク上でもサポートしていく環境を整えた。

3) スクーリング実習の充実化と実証講座の実施・検証

e ラーニングとスクーリング実習による「障がい者スポーツ支援学び直しプログラム」の実証講座を実施し、その結果に対する検証を行った。

平成 28 年度事業でスクーリング実習は受講者から高評価を得られたが、複数回参加したいなどの要望も多かった。そこで今年度は開催回数を増やし、複数回参加できるよう学習機会の拡充を図ることとした。

ウ)開発に際して実施した実証講座の概要

■スクーリング実習の充実化

スクーリング実習は、eラーニング教材による自己学習で獲得した専門知識を障がい者スポーツ支援の場面で実際に適用し統合化するプロセスであり、実践的なスキルの習得に不可欠な学びである。このスクーリング実習は平成28年度事業でも実施したが、そこでは受講者の高い評価・満足度を確かめることができた。その一方で、実践スキルの習得に向けて複数回の参加を希望する意見も多数寄せられたことから、今年度事業では実施期間を長く設定して回数を増やし、複数回参加できるように学習機会の拡充を図ることとした。具体的には、平成28年度事業では10月から12月の3カ月間に8回実施であったのに対して、今年度事業では5月から12月の8カ月間とし計14回開催する計画とした。

○実証講座の概要と目的

障がい者スポーツ支援に係る専門知識・技術の習得や障がい者スポーツ支援に関心を有する現役の理学療法士・作業療法士を対象に、本事業で開発した学び直しプログラムを実証講座として実施した。具体的には、受講者各人にeラーニング教材による自己学習で専門知識と技術を学び直してもらうと共に、スクーリング実習の受講と通して、障がい者スポーツ支援の実践について体験的に学習してもらうこととした。

実証講座の実施プロセスの中で、受講者自身による障がい者スポーツ支援の専門知識・技術に係る自己評価や受講後アンケート、eラーニングの学習ログ分析などを行うと共に、スクーリング実習担当者による実施結果のとりまとめを行った。これらの実証講座の実施によって得られたデータや知見などにに基づき、受講者が受講を通じて獲得できた専門知識・技術や態度などを総合的に考察し、本学び直しプログラムの有用性・有効性について検証することが実証講座の目的である。併せて、ここで集約された検証結果を学び直しプログラムの今後の改訂や効果的な運営方法・体制などに活かしていくことも狙いとしている。

○ 実証講座の対象者

実証講座で対象としたのは、障がい者スポーツ支援に今後関わっていききたい、当該分野の専門性を身につけていききたいなど、興味や関心を有している現役の理学療法士・作業療法士である。具体的には、本事業の実施委員が所属する大学・専門学校の理学療法士・作業療法士養成課程修了者（卒業生）に対して呼びかけを行った。平成27年度事業における実証講座に参加したことのある理学療法士・作業療法士の他、今年度初めて受講する者も対象とした。呼びかけを行った大学・専門学校は以下の通りである。

1) 大学

大阪保健医療大学、東京医療学院大学、聖隷クリストファー大学

2) 専門学校

大阪リハビリテーション専門学校、専門学校金沢リハビリテーションアカデミー、はくほう会医療専門学校赤穂校、ハーベスト医療福祉専門学校、高知リハビリテーション学院

○ 実施手法

実証講座は、平成 29 年 5 月から同年 12 月までの 8 カ月間に亘って実施した。

1) e ラーニング教材による自己学習

6 月に実施委員の各大学・専門学校に対して、e ラーニングの告知・募集を開始した。その後、受講希望者に対しては随時、e ラーニングのアカウントを発行し参加を受け入れることとした。

2) スクーリング実習

スクーリング実習は 5 月から 12 月にかけて、大阪府、石川県、静岡県、東京都の各地、計 13 回（日）開催した。

○ 開催実績（日時・コマ数）・受講者数

実証講座の実施期間、スクーリング実習を計 13 回実施した。当初、計 14 回の実施を計画したが、雨天のため 11 月 18 日の実習（会場：ジュビロ磐田志都呂）の実施が中止となった。

カリキュラム受講者の総数は 51 名で、スポーツを実施した障がい者・児（スポーツ大会協力者）は 321 名、ボランティア支援者 172 名であった（いずれも延べ人数）。

この他スクーリング実習では、スポーツ指導コーチ、ボランティア支援者、実施委員がそれぞれの立場・役割の下でスポーツ大会に参加した。

以下にその実施日時、場所、参加者を一覧で示す。

図表 「スクーリング実習の実施」

■ 関西

月日・時間	会場	参加者	所在地
5 月 14 日（日） 11:00～15:00	セレッソ大阪 フットサルパーク	○カリキュラム受講者 5 名 ○実施委員 3 名 ○スポーツ指導コーチ 4 名 ○スポーツ大会協力者 32 名 ○ボランティア支援者 30 名	大阪府

5月27日(土) 9:00～13:00	大阪府立砂川高等支援学校	○カリキュラム受講者 5名 ○実施委員 5名 ○スポーツ指導コーチ 4名 ○スポーツ大会協力者 30名 ○ボランティア支援者 10名	大阪府
7月2日(日) 11:00～15:00	南津守さくら公園 グラウンド	○カリキュラム受講者 5名 ○実施委員 4名 ○スポーツ指導コーチ 3名 ○スポーツ大会協力者 33名 ○ボランティア支援者 15名	大阪府
8月23日(水) 9:00～13:00	大阪府立砂川高等支援学校	○カリキュラム受講者 3名 ○実施委員 3名 ○スポーツ指導コーチ 4名 ○スポーツ大会協力者 30名 ○ボランティア支援者 3名	大阪府
12月2日(土) 12:00～16:00	ノアステージ茨木	○カリキュラム受講者 2名 ○実施委員 2名 ○スポーツ指導コーチ 4名 ○スポーツ大会協力者 48名 ○ボランティア支援者 30名	大阪府
12月16日(土) 9:00～13:00	大阪府立砂川高等支援学校	○カリキュラム受講者 6名 ○実施委員 4名 ○スポーツ指導コーチ 4名 ○スポーツ大会協力者 30名 ○ボランティア支援者 10名	大阪府

■関東

月日	会場	参加者	所在地
12月2日(土) 13:00～17:00	ゼルビア フットサルパーク	○カリキュラム受講者 4名 ○実施委員 5名 ○スポーツ指導コーチ 4名 ○スポーツ大会協力者 15名 ○ボランティア支援者 20名	東京都

■東海

月日	会場	参加者	所在地
10月7日(土) 12:00～16:00	ジュビロ磐田 志都呂	○カリキュラム受講者 3名 ○実施委員 2名 ○スポーツ指導コーチ 4名 ○スポーツ大会協力者 24名 ○ボランティア支援者 16名	静岡県

11 月 18 日 (土) 12:00~16:00	ジュビロ磐田 志都呂	※雨天により中止	静岡県
12 月 2 日(土) 12:00~16:00	ジュビロ磐田 志都呂	○カリキュラム受講者 3 名 ○実施委員 2 名 ○スポーツ指導コーチ 4 名 ○スポーツ大会協力者 23 名 ○ボランティア支援者 21 名	静岡県

■北陸

月日	会場	参加者	所在地
6 月 24 日(土) 12:00~16:00	内灘町総合運動公園	○カリキュラム受講者 5 名 ○実施委員 4 名 ○スポーツ指導コーチ 4 名 ○スポーツ大会協力者 15 名 ○ボランティア支援者 3 名	石川県
8 月 20 日(日) 12:00~16:00	内灘町総合運動公園	○カリキュラム受講者 1 名 ○実施委員 2 名 ○スポーツ指導コーチ 4 名 ○スポーツ大会協力者 13 名 ○ボランティア支援者 4 名	石川県
10 月 8 日(日) 12:00~16:00	内灘町総合運動公園	○カリキュラム受講者 4 名 ○実施委員 3 名 ○スポーツ指導コーチ 4 名 ○スポーツ大会協力者 20 名 ○ボランティア支援者 3 名	石川県
12 月 16 日 (土) 12:00~16:00	内灘町総合運動公園	○カリキュラム受講者 5 名 ○実施委員 2 名 ○スポーツ指導コーチ 4 名 ○スポーツ大会協力者 8 名 ○ボランティア支援者 7 名	石川県

○ 受講者のうち就業、キャリアアップ、キャリア転換につながった者の人数
スクーリング実習のカリキュラム受講者計 51 名の理学療法士・作業療法士。

エ)教育プログラムの有効性に関する検証手法及び結果の概要(職域プロジェクトAのみ)

■検証手法

実証講座の実施内容・結果に対する検証は、次に示す定量的な評価と定性的な評価を総合する方法で実施することとした。

1) 受講者アンケート

受講者の職種や臨床経験、eラーニング教材の視聴状況やスクーリング実習への参加回数など受講者の基本属性などに関するアンケートを実施する。これら自己申告でeラーニング学習ログや実施報告の検証に有用な補完データを収集する。

2) 自己評価表

スクーリング実習の受講後に受講者に「自己評価表」を配付し、障がい者スポーツ支援に係る各能力項目に対する自己評価(定量的評価と定性的評価)をしてもらう。具体的には、スポーツの直接指導、スポーツイベント・プロジェクトの運営及び企画などについて自身への振り返りをもとに評価付けを行う。受講前と受講後の結果を比較し、その差異と変化の要因を検証する。

3) スクーリング実習実施報告

スクーリング実習の全体統括・運営担当者による各回の終了後に所定書式にて、実習の実施内容、実施状況、実施後のフィードバック(スクーリング実習で学んだこと、今後カリキュラムやeラーニング教材で取り上げてほしい事柄など)を実施報告としてとりまとめる。この報告の内容に基づき、スクーリング実習の有用性や改善事項などについて検証する。

4) eラーニング学習ログ

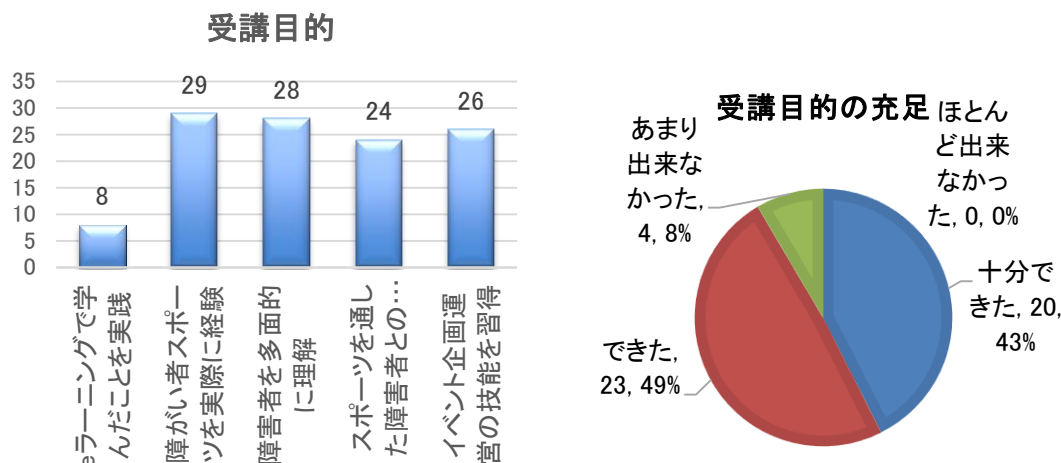
eラーニング教材を配信するサーバに蓄積管理される受講者の学習ログ(履歴)データに対して分析を行い、eラーニング教材による自己学習の状況を評価・検証する。具体的には、サーバへのアクセス回数、各学習単元のコマの視聴回数、確認テストの正解率などを指標として考察する。

検証分科会が検証を実施し、その結果を上位機関である実施委員会に報告する。報告内容を実施委員会で審議し、事業としての検証結果を総括する。

■検証結果

1) 受講者の高い受講後の満足度

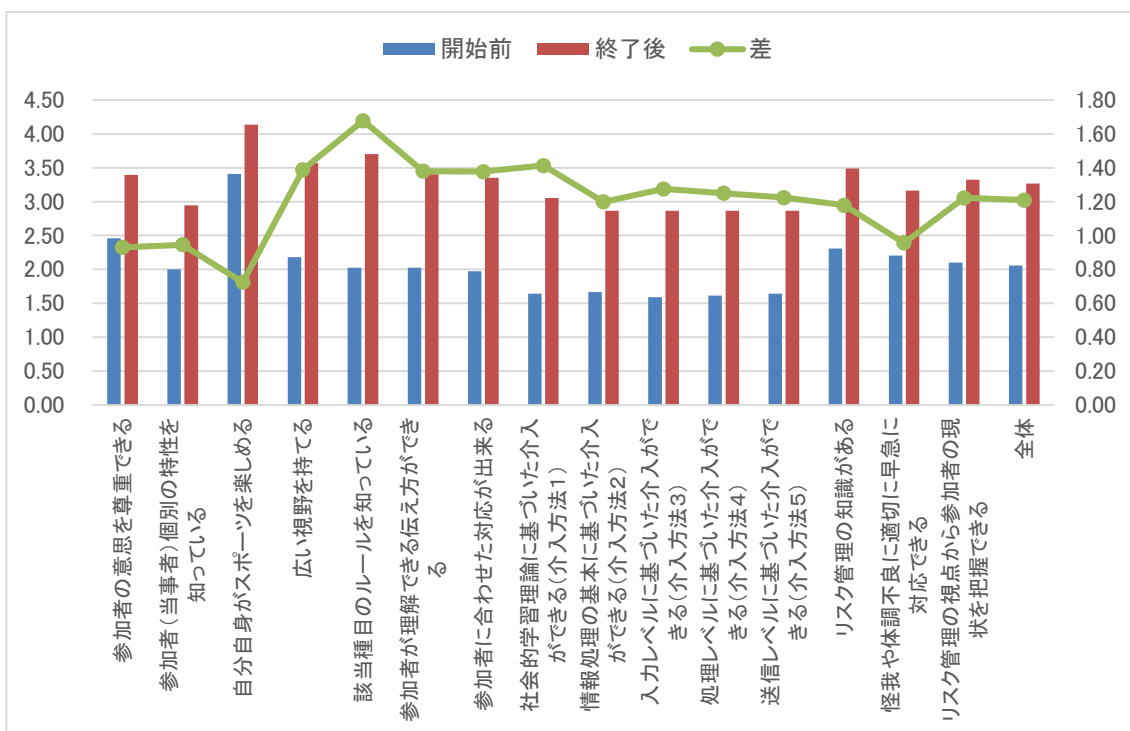
「受講者アンケート」の設問「本日の実習で、あなたの受講目的は充足できましたか」の結果をみると、「十分できた」が43%、「できた」が49%となっているのに対して、「あまり出来なかった」は8%に留まり、「ほとんど出来なかった」は皆無であった。この受講者の受講後の高い満足度は、実証講座の有効性の一端を示すものとみることができる。



2) 障がい者スポーツ支援のスキル向上

「自己評価表」では、「スポーツを直接指導すること」「プロジェクトやイベントを運営すること」「プロジェクトやイベントを企画すること」「プロジェクトやイベントの成果を示すこと」という4つのスキルについて自己評価をもらった。その結果、4つのスキルを構成する各小項目のいずれも、受講開始前と受講終了後ではプラスの方向に「できる」レベルが向上している。

次に掲載するグラフは、4つのスキルのうちのひとつ「スポーツを直接指導すること」について受講前と受講後の自己評価を比較したものである。項目によって伸び幅に相違は認められるものの、全体としては、講座の受講を通して、障がい者スポーツ支援に係るスキルが向上したという一定の教育効果を確認することができた。



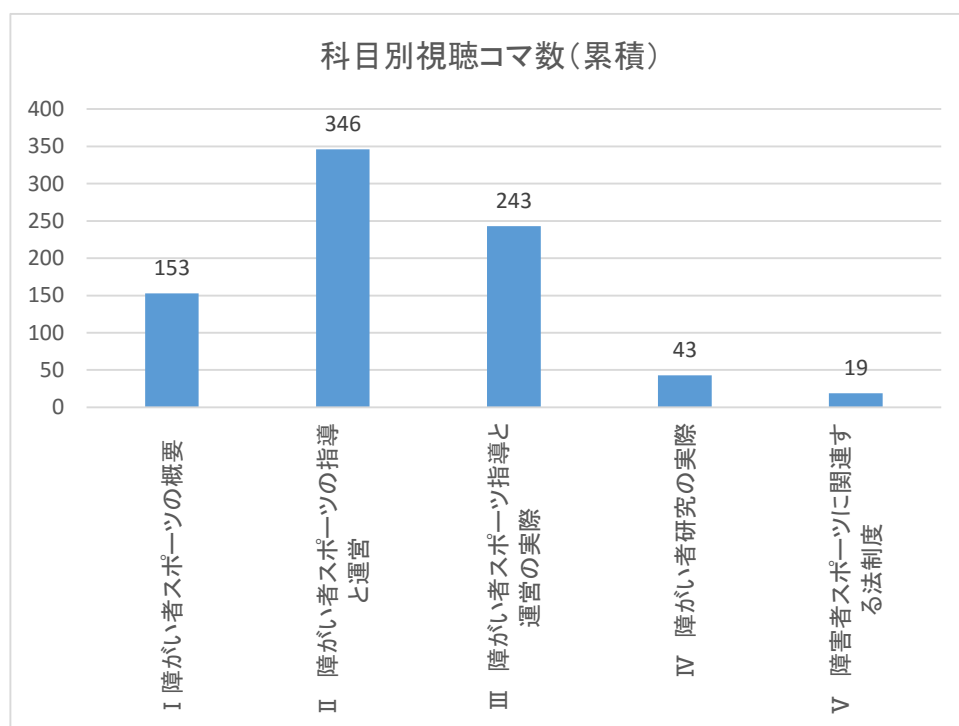
3) 多数の参加・協力によるスクーリング実習の実施

スクーリング実習についてみると、カリキュラム受講者は51名、スポーツ大会協力者（スポーツを実施した障がい者・児）は321名、昨年度の実施実績及び当初の計画を上回る人数規模での実施となった。また、関西（大阪府）、関東（東京都）、東海（静岡県）、北陸（石川県）という広範囲に及ぶ4つのエリアで計13回に亘り開催できた。eラーニングとコラボレーション支援環境を通して、これからも受講者を遠隔サポートしていく中で、スクーリング実習での学びの成果が各地で定着していくことを促進したい。

また、「実施報告」の「実施後フィードバック」からは、スクーリング実習での体験的な学びから多くの受講者が障がい者スポーツ支援の楽しさや、支援者としての役割の大切さを実感したとする声を読み取れる。定量的な評価はできないが、4 エリア各地の受講者に対して障がい者スポーツ支援に係ることへの意欲を喚起できたことも事業の成果である。

4) スクーリング実習での学びを支えるeラーニングによる自己学習

7月から提供が開始されたeラーニングは、当初は利用が少なかったものの、10月に入ってから徐々に利用者数、講義動画視聴回数が増加した。10月末時点のユニークな利用者数は42名、12月末には72名にまで増加した。また、視聴された講義動画のコマ数も累計で800を超える結果となった。その内訳を科目別でみると、「障がい者スポーツの指導と運営」と「障がい者スポーツの指導と運営の実際」が抜きん出て多い。これらの科目は、スクーリング実習と直接的にリンクした内容を扱っており、多くの受講者が明確な目的意識を持って、この2科目を学んだものと推察される。その意味において、eラーニングでの自己学習はスクーリング実習での体験的な学習を支援する一定の働きをなしていたといえるだろう。



iv) 実証講座の受講者数

※本年度事業で実施したすべての実証講座の総数で記載すること。

本年度事業の中で実施した実証講座(実施経費を委託費で支出したもの)の受講者数						
	受講者数 (※2)		受講者のうち 女性の人数 (※2)		受講者のうち就 業、キャリアアップ、キャ リア転換につながっ た者の人数(※2)	
全受講者		人		人	51	人
全受講者のうち、専修学校の正規課程在学者		人		人		人
全受講者のうち、社会人(※1)		人		人	51	人

※1 調査年度(平成28年5月1日時点)において職に就いている者、すなわち、給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者をいう。ただし、企業等を退職した者、及び主婦なども含む(学校基本調査と同定義)。全受講者のうち、「専修学校の正規課程在学者」に該当するかどうか不明な場合は、当該受講者を「社会人」として計上すること。

※2 複数回の講座を開催した場合において、同一の受講者が複数回講座を受講している場合も、のべ人数として加算すること。

v) 「女性の学び直し」に対応した取組内容等(実施体制、プログラムの構成、環境配慮等)

※「3 実施したプロジェクト」で、「女性の学び直し」対応欄にチェックを入れた場合に記入すること。

--

(3)事業実施により生じた成果物(教材、シラバス、達成度評価基準等。成果報告書を除く)

■成果物① モデルカリキュラムの改訂

平成 28 年度事業に実施した実証講座の結果検証を通して、学び直しプログラムの内容に対する受講者の高い評価を得ることができた。これにより、カリキュラムが取り上げている障がい者スポーツ支援に係る専門知識・技術の領域・範囲やレベルが目標とする水準となっており、学び直しプログラムとしての有用性・有効性を確認することができた。

学び直しプログラムの全体に対しては高評価であったが、細部においては改善すべき点が明らかとなった。最も多かった改善要望は、e ラーニング教材の視聴単位である各コマの時間数にばらつきがあり、時間数の長いコマでは学習の中断を余儀なくされるという点であった。

e ラーニング教材の制作にあたっては、当初各コマ 10 分程度という方針の下で進めたが、結果的にこれが徹底されず、長いものでは 40 分を超えるコマもあった。

そこで、自己学習の継続や集中力の維持を図る狙いから、各コマの視聴時間が 10 分前後となるよう全体を再編した。また、この再編に伴い、一部のコマについて統廃合を実施し、より学びやすい構成へと改めた。

No	科目	平成 28 年度		平成 29 年度	
		単元数	コマ数	単元数	コマ数
①	障がい者スポーツの概要	4	10	4	7
②	障がい者スポーツの指導と運営	3	25	3	29
③	障がい者スポーツ指導と運営の 実際	3	18	3	17
④	障がい者スポーツ研究の実際	3	11	3	14
⑤	障がい者スポーツに関連する法 制度	5	5	5	5
計		18	69	18	72

■成果物② e ラーニング教材のバージョンアップ

モデルカリキュラムの改訂に合わせて e ラーニング教材のバージョンアップを実施した。改訂によるコマの統廃合及び 1 コマの視聴時間の統一化に対応するために、e ラーニング教材全編の講義シナリオの見直し・書き直しを行い、講義映像を再収録した。これと並行して、板書に相当するパワーポイント資料や背景の鮮明化など、より快適に視聴できるように映像の質向上も試みた。

また、平成 28 年度事業の実証講座実施後に受講者から要望が多かったパワーポイント資料のダウンロードについても、後述のコラボレーション支援環境を利用することで可能となるようにした。



■成果物③ コラボレーション支援環境の再整備と運用

平成 28 年度事業で検討・試行版の設定を行った専用 SNS「コラボレーション支援環境」を再整備し運用した。これは、遠隔の受講者同士、講師やコーチ、スポーツイベントの運営責任者などを相互にインターネット上で結ぶ情報共有・交流の SNS サイトで、eラーニングによる自己学習やスクーリング実習で学ぶ受講者を継続的にサポートしていくことが目的である。ここでは、学習内容（eラーニング教材の内容）についてやりとりをするコミュニティの他、障がい者スポーツイベントに関する情報提供・共有を行うコミュニティ、eラーニング教材の資料を閲覧・ダウンロードできるコミュニティを設置した。具体的な活用の方策は以下の通りである。

1) 情報交換・共有

- (1) 科目やカリキュラム等に関する受講者の質問に対して、担当講師等が回答する。
- (2) 障がい者スポーツ支援の経験を有する理学療法士・作業療法士が受講者の相談を受ける。
- (3) 受講者同士が感想や意見等について情報交換する。

2) 情報提供

- (1) スクーリング実習の案内や開催されたスクーリング実習の実施の様子等を報告する。
- (2) eラーニング教材で使用している資料（パワーポイントのスライド）をダウンロードする。
- (3) その他、学習支援に有用な情報を閲覧できるようにする。

以下にコラボレーション支援環境の画面例を掲載する。

これは、ユーザー各人に提供される「マイホーム」と呼ばれる拠点となる画面で、ここから各コミュニティを辿っていく。

以下にコラボレーション支援環境の画面例を掲載する。

これは、ユーザー各人に提供される「マイホーム」と呼ばれる拠点となる画面で、ここから各コミュニティを辿っていく。

画面例:

ナビゲーションメニュー: マイホーム, メンバー検索, コミュニティ検索, 設定変更, 友人を招待する, ログアウト

タブ: ホーム, マイフレンド, プロフィール確認, プロフィール編集

INFORMATION

大阪保健医療大学

管理者 (0)

[写真を編集する](#)

[プロフィール確認](#)

コミュニティリスト

スポーツイベント (13)

アーカイブ (3)

Eラーニング意見交換 (10)

[全てを見る \(3\)](#)

コミュニティ最新書き込み

- 08月28日... [カンボジア スポーツ特化スタディツア\(0\)](#) (スポーツイベント)
- 07月03日... [科目「障がい者スポーツに関連する法制\(1\)](#) (アーカイブ)
- 07月03日... [科目「障がい者スポーツ研究の実際」\(1\)](#) (アーカイブ)
- 07月03日... [科目「障がい者スポーツの指導と運営の\(4\)](#) (アーカイブ)
- 07月03日... [科目「障がい者スポーツの指導と運営」\(14\)](#) (アーカイブ)

[もっと見る](#)

コミュニティ最新イベント

- 07月23日... [ユニファイドサッカー練習会【in東京都\(0\)](#) (スポーツイベント)
- 07月04日... [障がい児サッカースクールin金沢\(0\)](#) (スポーツイベント)
- 07月04日... [2017年 第2回 スペシャルオリンピ\(0\)](#) (スポーツイベント)
- 07月04日... [第36回スポーツフェスタ2017大阪\(0\)](#) (スポーツイベント)
- 07月04日... [SO大阪 サッカープログラム\(0\)](#) (スポーツイベント)

(4)事業終了後(※)の成果の活用方針について

(※)平成30年度以降、3年程度までの期間を想定して記載すること。

i)自校への事業成果の導入について

■国内での活用方針・手法①

大阪保健医療大学は、「障害者スポーツ入門」「障害者スポーツ指導論」(リハビリテーション学科選択科目)及び「スポーツと作業療法」(作業療法学専攻専門科目)が、平成28年度入学者を対象にカリキュラムが設けられた。また同法人の大阪リハビリテーション専門学校においては、「障害者スポーツ」(作業療法学科選択科目)が既にカリキュラムにあり、事業後は、その授業の中で本カリキュラム(特にスクーリング実習カリキュラム)を活用していく。

大阪保健医療大学・大阪リハビリテーション専門学校のOB・OG会組織「校友会」の協力を得て、障がい者スポーツeラーニング(平成27年度、平成28年度作成)及び障がい者スポーツeラーニングバージョンアップ版(平成29年度作成)のいずれも視聴できる環境を整え、「校友会」活動に一環として、事業後も視聴を促し、障がい者スポーツ人材育成を継続していく。また「校友会」から要望があった際には、SNS「コラボレーション支援環境」も継続して整備し、更なる双方向教育の検討を行っていききたい。

■国内での活用方針・手法②

障がい者スポーツ支援に係る研究は端緒についたばかりである。引き続き、理学療法・作業療法という観点から、障がい者スポーツ支援の実践に関する研究を継続し、その研究成果は随時、本教育プログラムへと反映させていく。また、大阪保健医療大学の卒業研究や大学院や修士論文にも活用していく。

■グローバル展開の方針・手法

大阪保健医療大学は、「国際リハビリテーション」(理学療法学専攻・作業療法学専攻専門科目)が、平成28年度入学者を対象にカリキュラムが設けられた。カンボジアを中心としたASEAN諸国スタディーツアーを行う。スタディーツアーの中には、現地の障がい児・者とスポーツを通じた交流の場面もあり、スクーリング実習カリキュラムの一部を活用していく。

またカンボジアスタディーツアーは、大阪保健医療大学・大阪リハビリテーション専門学校のOB・OG会組織「校友会」活動の一環として本学学生だけでなく社会人も対象である。その事前準備として障がい者スポーツeラーニング及び障がい者スポーツeラーニングバージョンアップ版も紹介していく。

ii) 他校への事業成果の導入について

※他校にプログラムを導入する予定の場合には、具体的な導入予定年度と学校名・科目名を記載すること。

本事業終了後も障がい者スポーツ e ラーニング(平成 27 年度、平成 28 年度作成)及び障がい者スポーツ e ラーニングバージョンアップ版(平成 29 年度作成)のいずれも視聴できる環境を継続して整える。

本事業の推進主体組織である実施委員会の構成機関である理学療法士・作業療法士養成校を中心に学生や卒業生などへ障がい者スポーツ e ラーニング及び障がい者スポーツ e ラーニングバージョンアップ版を紹介する。

また本事業において育成された人材(51名)が中心となって、各地域主体でスクーリング実習カリキュラムを継続して実施する予定である。大阪以外の地域では東京、静岡、金沢では実施可能である。

iii) 企業・団体における研修等への導入について

本事業終了後も障がい者スポーツ e ラーニング(平成 27 年度、平成 28 年度作成)及び障がい者スポーツ e ラーニングバージョンアップ版(平成 29 年度作成)のいずれも視聴できる環境を継続して整える。

地域の理学療法士・作業療法士会などの職能団体や障がい者の就労・生活を支援している企業や福祉施設などへ本事業の実施委員が障がい者スポーツ e ラーニング及び障がい者スポーツ e ラーニングバージョンアップ版を紹介する。

また各地域で継続して開催されるスクーリング実習への参加も呼び掛けていく。

iv) その他の導入予定等

特になし